

## 貝殻の中に貝？（ヒラフネガイ）

現在、香川県水産試験場では、イイダコの生態調査を実施しています。なぜかという、近年、イイダコの漁獲量は激減しており、資源管理方法の検討に向け、イイダコの成長や成熟についてのデータが必要なためです。

イイダコは、貝殻や空缶などの内部に卵塊を産み付けることが知られており、最近、漁業者から提供していただいたサンプルでも確認しています（写真1、2）。

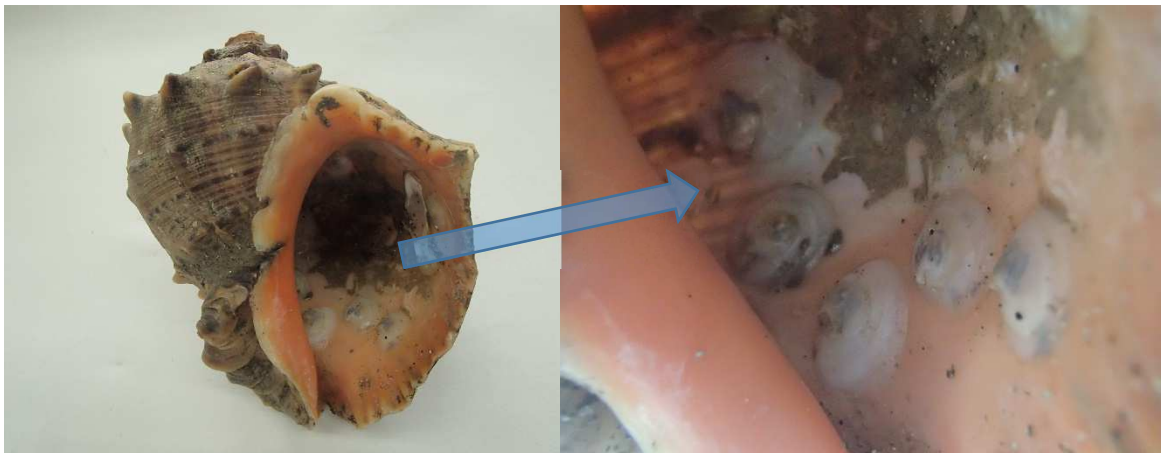


写真1



写真2

さて、こうして貝殻を観察していると、その内部に貝のようなものが付着していることがたびたび見つけられました（写真3）。



表側



裏側

写真3

調べたところ、これは、ヒラフネガイという貝だとわかりました。ヒラフネガイは、たいへん平たい形をしていますが、アワビと同様に巻貝の仲間です。私が確認した殻の大きさは1~2cm程度で、裏側をみると、足部があり、これで付着していたと思われました。シラタマツバキガイという別名もあるそうです。死貝の内面等に付着するということですが、図鑑によっては、ヤドカリ類の入った巻貝の殻の内部に付着するとも記載されています。

私が観察した時点では、ヤドカリは不在でした。ひょっとしたら、貝殻の利用者がヤドカリからイイダコへと移ったのかもしれませんが。ヤドカリ、イイダコ、ヒラフネガイ、・・・、海の中では、死貝の貝殻にも重要な役割があることをあらためて実感しました。

#### 【参考資料】

原色日本貝類図鑑 増補改訂版 1977年発行 保育社 33ページ

学研生物図鑑 貝 I 巻貝 1996年発行 学習研究社 71,262ページ

(文責 安部昌明)